

## ◇現代社会と青年◇

## 叱ることは人間教育の礎である

むろだて  
いさお  
室館 勲(株式会社キャリアコンサルティング)  
代表取締役社長

毎年、五千人を超える大学生や若手社会人が弊社のサービスに登録してくれます。なぜこれだけ多くの若者が集まるのか。それは、若者を対応する社員に「魅力」があるのが当然として「厳しさ」もあるからです。社員の指導レベルの指標の一つが「叱ることができるかどうか」だと思っています。

昨今「バワハラ」という言葉の存在感が増してきました。それに伴い、スポーツ団体、学校、企業は生徒や社員を警戒しながら扱っている印象があります。そのためなのか、リーダーシップの基礎を教育している我々から見ても、若者たちの中には話の聞き方や連絡ができない、集合時間に遅れるなど、非常に「ユルい」若者が多いと感じています。親からも本気で叱られたことがない子どもたちも珍しくありません。なかには自分のレベルが高いと勘違いして人を見下すような若者もいます。そんな若者たちをどうするか。いきなり叱ると思いますか。いえ、まだ早いです。

まず、面談などで雑談を交えながら何度か会ううちに信頼を得て、かつ少しでも憧れられる存在にならなければなりません。実力や知性の面で「すごい」と思われる努力をするのです。そして若者に目標設定をさせて、実力アップを決意させます。「この人は自分の味方だ」と理解した若者は「必要なら叱ってください」「叱られるレベルに早くなりたい」と思うようになるものです。

ここまでくれば下地は十分。後はタイミングを見て叱ります。私は、本人の親の代わりだと思つて真剣に叱ってきました。もしかしたら、ふてくされたり、逆恨みされたり、離れていったりするかもしれません。ただ、そういうリスクを取つても、腹を割つて話をするからこそ、若者には言葉が突き刺さるものなのです。そうやって顔が晴れ、心が晴れて行動が変わつてきた若者をたくさん見てきました。正しく叱れば、若者はその言葉に共鳴し、成長していくのです。

「どうやって叱れば良いですか」とよく聞かれます。今まで出会ってきた先生、観てきた映画・ドラマなど、言葉が心に響いたシーンなどを、今一度、真剣に勉強していただき、その言い回し、その想いを参考にしてください。

社会人やリーダーとしての基本を身につけさせるためには「叱る」こと。叱るためにはまず、叱られた若者が「有難うございます」と思うような人間関係を構築しておくことが肝要です。